

コロナに負けない！

八清親和会の 新しい 自治会活動スタイル

第1版[令和2年度]

“地域のつながり” を守り続けるために

“自治会会員のつながり” を守り続けるために

【目次】

自治会活動の運営

1. 運営方法
2. 総会・会議・委員会
3. 情報共有・広報活動

親睦・ふれあい・交流活動

1. 地域の環境・美化
2. 地域の安全・安心
3. 四大行事
4. 自治会会報・行事実施報告
5. 代替え行事・活動

はじめに

令和2年は、新型コロナウイルス感染拡大により、自治会としても、今までに経験をしなかった自治会活動の中止や自粛に追い込まれた1年となり、八清親和会もいろいろな教訓を得た1年になりました。

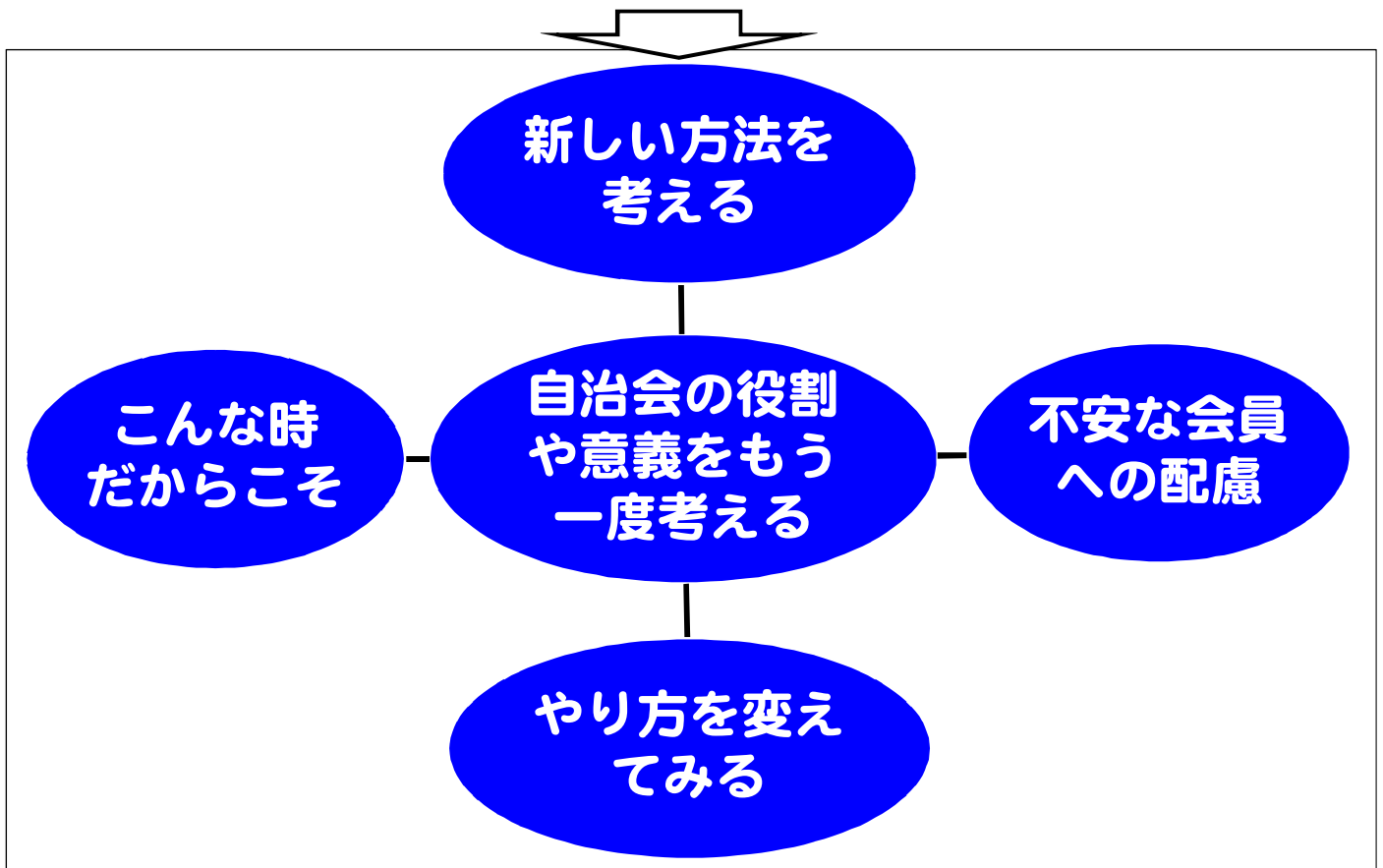
また、各自治会に於いても、地域のお祭りや自治会活動などの中止、自粛を余儀なくされるなか、感染予防対策を徹底しながらの自治会活動が難しい、どうしたらよいか迷われた自治会や、役員の方も多かったのではないのでしょうか。

一度活動を中止してしまうと、なかなか再開できず、これまで培ってきた地域のつながりや、会員との親睦・ふれあい・交流などのつながりが希薄になってしまうことが懸念されます。八清親和会は、これらを意識してコロナ禍を自治会の「危機」と捉え“地域のつながり”や“自治会会員とのつながり”を守り続けるために如何なる活動を行うべきか、この1年間工夫やアイデア、会員からの提案などを取り入れ活動してきました。

いまの状況を見ていると、令和3年も、まだまだ新型コロナウイルス感染症感染拡大の終息見通しが立たず“ウィズ コロナ（コロナとの共存）”の状態、制約された中の自治会活動になるのではないかと考えられます。

令和3年の活動もすでに始まり3ヶ月が過ぎました。各自治会今年度の活動計画を策定し実行に入っていると思いますが、今年も「コロナ災害」とも言うべき環境下で、自治会活動を続けていくためのヒントになるよう、八清親和会が昨年1年間ならびに今年の6月迄おこなってきた新たな活動方法や、工夫した取り組みをまとめましたので、ご紹介します。

コロナ禍の中での活動はどうしたらよいか



自治会を支える基本的な取り組みであり、今までどおりの方法を基にして、コロナ禍の環境下でもできる様々な工夫、アイデアを取り入れておこなってきました。また、これにより、新たな発見もありました。

1. 運営方法

◇新型コロナ禍を契機に、自治会運営・活動方法をもう一度見直し“迅速に、変化に対応できる柔軟性のある自治会へ”の改革を行いました。

- 従来の“動”を中心とした活動から“静”を主体にした活動にスピーディに切り替えました。筆者の持論、自治会は“動”と“静”の『車の両輪』のような活動で成り立っています。この両輪がしっかり回っていれば前に進み、速度が速まれば自治会は衰退するどころか、活発に元気になり、楽しい魅力ある自治会になるということです。また、「コロナ禍」の環境下でも、コロナに負けない自治会活動ができるということです。

では“動”の活動とは何か、行事や会合等の人が集まる活動のことであり、“静”の活動とは、ペーパーやIT（情報技術）・デジタル化等を駆使した会員とのコミュニケーション、情報伝達・提供などの広報を中心にした活動です。

- 今までの行事・活動は、人が集まり人との対面接触による活動が主体であり、中心でもありました。このような、室外行事や人との接触、対面活動から切り替え、人との接触や対面を自粛してもできる、新たな活動方法や工夫を取り入れた取り組みを考えることです。
- ほとんどの自治会では、このような時まず決まってしまうことは、アンケートを取って集計し、結果を見て会員が何を望んでいるか把握してから検討するという、お決まりパターンではないでしょうか。
- また、会長や副会長だけでは決められず、自治会役員みんなの意見を聞いてからという、これもお決まりパターンです。そして卓上だけの議論や検討だけで1年が経過し、何か行った気分になるが、実際は何も決まらず、変わらず、実行されない、相も変わらずコロナ前と同じやり方を行っているのが実態ではないでしょうか。皆さんの自治会はいかがですか。これは、正に旧態依然の硬直した運営方法にほかなりません。今やIT（情報技術）、デジタル時代であり、日月単位から、時間単位の活動・行動のスピード時代です。自治会も、このような時代に即したスピードある活動・行動に考えを変えることが始まりの第一歩です。
- 八清親和会は、コロナ禍の中では即効性を考え、形式的な手順等は、できるだけ簡略化しました。まず三役で話し合いやってみる。駄目だったら止めるか、変えればいい事と割り切って始めました。即ち、松下幸之助のアイデアの教え“まずはやってみなはれ！”の実践です。
- これこそが“平時のボトムアップ、危機のトップダウン”です。今や新型コロナウイルス感染症感染拡大は「感染災害」あるいは「人災」です。これを八清親和会は“自治会活動の危機”と捉えました。

◇令和2年度は、これらの経緯から、まず自治会活動を「感染災害」の環境下でも活動できる“静”を中心にした活動にシフトし実施しました。

2. 総会・会議・委員会

◇総会・会議・委員会も「感染災害」の中でも実施できる「書面スタイル」に変えました。

○自治会として初めて取り入れた、従来の総会を「書面総会」に変更しました。

「書面総会」実施の成功ポイントは、



1, 「書面総会」の内容や実施方法を総会資格者へ周知

総会資料準備から、議決結果報告までの工程・日程表を新たに作成し、従来の総会よりも期間に余裕を持たせ、日程から逆算した総会準備をスタートさせ、関係者・総会資格者に周知、徹底しました。

2, 総会資料・表決書の送付、回収方法の明確化

総会資料・書面表決書の総会資格者への送付、ならびに表決書の回収（提出）ルートを明確にし、効率的に、且つ確実に期日までに表決書を回収（提出）できるようにしました。

- ・八清親和会の総会資料配布・表決書の回収ルート：常任委員に回収責任を持たせました。
配布：三役⇒常任委員（区長）⇒組長 表決書回収：組長⇒常任委員⇒会長宅

3, 総会資料を書面総会用に記載内容を変え、補足資料を付けるなど、説明を必要としない総会資料に改善

総会資料は、従来の総会会場で出席者に説明するかたちの資料ではなく、総会資格者が読み見て解かる、説明を必要としない「書面総会用資料」を作成しました。

- ・行事・活動実績報告は、新たにコロナ禍のなか、何を、どのような方法で活動してきたか概要・要点を記し、行事・活動の中止や自粛のなかでも、工夫し一定の自治会活動ができたことを改めて会員に解かるようにしました。
- ・議案については、総会資料とは別に各議案に対する趣旨説明、付議理由等を記した補足資料を添付し、説明しなくても理解して表決できるようにしました。

4. 総会資格者からの質問、説明要請を受ける、回答できる専用窓口と担当の設置

自治会の総会は、高齢者から若い世代までの幅広い年齢層や、会社員・自営業・主婦・退職者などの幅広い職歴層の会員で構成されているため、また任期1年の輪番制のため経験不足による聞きたいことや、さらなる説明希望者のために、総会資料の全ての質問・あるいは説明要請に答えられる専用連絡先、担当を設け総会資料に掲載しました。

◇役員会（会長・副会長・会計の5人）：中止すること無く毎月末、定例の対面会議形式で1年間+α（臨時）実施し、役員会の活動を止めない。

- ・コロナ禍の中での役員会のポイントは、翌月初めの常任委員会開催方法を定めることです。
- ・役員会時のコロナ感染拡大状況で「会議スタイルの委員会」または「書面委員会」のどちらにするかを決定し、常任委員会メンバーへ連絡します。
- ・書面委員会の場合は、ダイジェストスタイルの次第を役員会協議内容ならびに結果を「書面常任委員会報告」にまとめ、書面常任委員会変更連絡と共に常任委員会メンバーへ配布します。

◇常任委員会：中止すること無く、毎月定例で従来の「会議スタイルの委員会」または「書面による委員会」の、いずれかで1年間+α（臨時）実施し、常任委員会の活動を止めない。

- ・次第を、会議スタイル、書面委員会両方に使用できるように、従来のものから見て説明を必要としない「ダイジェスト(わかりやすく要約を記したもの)スタイル」に変えました。

- ・「ダイジェストスタイル」の主な項目の区分け、
 - * 特記事項
 - * 報告事項
 - * 今後の予定（又は協議事項）
 - * その他（三役が確認する今後の行事・活動予定）

書面委員会の場合は、三役会の協議結果報告ならびに常任委員会付議議案等について、説明を必要としない要約の記述内容にしました。

令和2年度12月書面常任委員会議事報告	
特記事項	アジ
報告事項	1. 11月14日(土) 昭和4中学校校庭遊園地遊園委員会主催の遊園施設等・運動部練習を昭和中学校体育館で実施しました。参加者は24名、八幡親和会からは7名(平松・三田・鈴木(男)・大塚・伊達・飯島・吉田)の方が参加しました。21日の秋祭りに参加し、平松・三田・吉田の3名が代表として出席しました。 2. 11月15日(日) 八幡ロータリー花壇の花の植え替えを行いました。当日、木島・早稲垣副会長、若人登・宇田2名が参加しました。同日14日に八幡球生会15名が、花壇の草取りを行っていただきました。 3. 八幡ロータリーのイルミネーションの点灯を11月17日から始めました。点灯は、1月末まで行います。 4. 10月1日～11月30日の期間で実施された「社会福祉協議会増徴運動」「お祝い金共同募金」の報告は、4月一括報告会計で残っていた募金額を12月31日までに社会福祉協議会に納めます。社会福祉協議会増徴：86(千円) 274名員 (協力率82%)、お祝い金共同募金：85(千円) 271名員 (協力率81%)、報告金額は6月常任委員会報告後、総務で会員にも報告済みにつき省略します。
今後の予定	1. 12月12日(土) 前橋市防災課主催令和2年度各自治会代表出席「自主防災組織リーダー研修会」八幡親和会からは自治会代表が出席。講義：東日本大震災の被害体験と避難所運営などについて 2. 12月13日(日) AM9時30分～八幡子とち会が雑品(雑器)回収を行います。雑品(雑器) 引出の場をお願ひします。(雨天の場合2日)お知らせは随時、再お知らせで随時随時行います。 3. 八幡親和会の大掃除 12月20日(日) AM9時～11時 年末の大掃除を行います。三役・相談役・本部委員・常任委員、総務課の参加も歓迎いたします。 4. 12月28日(月)～30日(水) 3日間、総務課・防犯協会・総務消防署主催、年末年始の防災・交通安全の集まり。 PM8時～9時、9時～10時の2回、3日間で実施。参加者は、三役・相談役・本部委員・常任委員・青年部。ご参加をお願いします。 5. 元旦の昭和天皇お祭りの実施。 元旦 AM5時～10時迄、お祭りがありますので、参加可能な常任委員会メンバーへご連絡をお願いします。 6. 新年会(遅くとも1月9日) 飲み物の持ち寄り を兼ねた1月常任委員会開催 1月9日(土) PM7時～8時30分を予定
その他	アジ

3. 情報共有・広報活動

◇IT(情報技術)・デジタル化とペーパーの共存

自治会“八清親和会”を含め、多くの自治会は、運営方法や情報伝達、広報へのIT活用やデジタル化が遅れているのが現状です。

また、会員や役員についてもデジタル機器になれていない高齢者が多く、ペーパー中心の会員とのコミュニケーション、情報提供が主流です。

コロナ前までは、これでも良かったのですが、今回のコロナ禍により、文書の配布・回覧等対面接触が限定され、対応できなくなった自治会も多いと聞きます。

一方、今の若い世代はペーパーで情報を提供しても、ほとんど見ないことも認識する必要があります。

都道府県、区市町村の自治会・町会を調べると、すでにコロナ禍を「ピンチをチャンス」と捉え、ITを活用して活動している自治会・町会もあります。

例えば、会員に電子メールを登録してもらい、「メールの自治会・町会だより」を配信したり、また、より進んだ「ウェブ会議」を行っている自治会もあります。

さらに、このIT活用を、“役員の担い手不足解消”や“加入促進活動”に繋げて、自治会・町会の再生の契機にしている自治会・町会もあるようです。

このような他区市町村自治会の事例を見ても、八清親和会は残念ながら「雲泥の差」があります。しかし、今の自治会の実力にあった「情報共有・広報活動」を模索し、新しいスタイルで実施してきました。

それが「IT（情報技術）・デジタル化とペーパーの共存」です。

平成25年（2013）から6年間の自治会改善・改革活動の手段として行ってきたIT（情報技術）の活用・デジタル化を土台にして、従来のペーパーによる方法と併用した、コロナ禍でクローズアップされてきた「IT活用・デジタル化」による「情報共有・広報活動」を実現しました。

【IT（情報技術）・デジタル化の活用】

情報発信・提供のスピード化：会員あるいは役員関係者への情報発信・提供は、書類・データ受領、又は作成当日又は、遅くても翌日発信・提供を実現しました。

◇八清親和会ホームページの活用

- ブログ投稿「最新情報」に自治会の行事・活動や連絡、お知らせ、案内、ポスターならびに、八清住宅地域の身近な話題、広報担当のつぶやき「役員のひとり言」等、ほぼ毎日投稿、掲載し自治会の活動やPR、最新情報等を会員及び八清親和会ホームページ閲覧者へスピーディ、且つタイムリーに提供。
- 「最新情報」への昭島市からのポスター・回覧物の掲載。
- 「最新情報」への八清住宅地域登校小中学校の学校と地域をつなぐ「小中学校だより・通信」の掲載。
- 「最新情報」ならびに常時閲覧できる基本活動ページへの自治会会報「八清親和会トピックス」の掲載。

◇八清親和会会報「八清親和会トピックス」のデジタル配信

- 八清親和会ホームページへの掲載配信。
- 子ども会会員（親御さん）への電子メール＋LINE配信。

◇会員への感染不安の配慮と知りたい情報の提供として、会員へ昭島市・東京都・全国都道府県の「最新の新型コロナウイルス感染関連情報」をグラフ・図等により、分かり易くデジタル発信。

○今年の情報発信のキーポイントは、新型コロナウイルス感染拡大や感染予防対策、ワクチン接種に関する日々変わる、あるいは会員が知りたい、またメディア等の報道で解からない情報について、昭島市、東京都の「分かり易い会員目線のグラフ・図等を用いた最新情報」の提供です。

ほぼ毎日感染情報として更新し提供しています。

これが**コロナ禍の中で、会員へ”自治会の存在感を高め、また改めて会員のための自治会であることを再認識していただいた”一番の自治会活動**と思っています。



◇IT・デジタル化を駆使した作成物の大幅な日数、時間の短縮、データ等のペーパーレス保存、データ利用の効率アップと情報発信・提供のスピードアップ、新型コロナウイルス感染症感染拡大により“静”の活動のウエイトが増した分、デジタル化を拡大し、加速させました。

- ・自治会報作成日数の、日数単位から数時間単位への大幅短縮（一人で月2回以上発行のための作成を可能にしました）

- ・会報・文書、ポスター、チラシ、グラフ・図等保管のペーパーレス化と、集中管理・統一化を実現しました。
- ・データのデジタル化による保存、グラフ・図等への加工、活用への大幅効率アップ・時間短縮が実現できました。
- ・写真等のデジタル保管による検索と活用の効率アップ。
- ・文書等の作成時間の数時間単位への効率化、作成の標準化・統一化、保管のペーパーレス化、集中保管管理を可能にしました。

【既存のペーパーによる回覧・掲示板の活用】

◇回覧による会員へ情報発信・提供のスピードアップ：

ペーパーによる定期的情報発信・提供として、月2回への集約とスピードアップ。

会員への情報発信・提供は、月2回発行予定（月始め、20日頃）の会報ならびに回覧のサイクルに合わせたタイミングの良いペーパー情報発信・提供の実施。

（連絡・お知らせ・案内等の役員・関係者への連絡ペーパー配布は、直接ポスティング配布）

◇会報「八清親和会トピックス」月2回発行（年24回以上）回覧で、積極的な情報発信・提供

インターネット、スマホから情報を取ることができない会員のため、ペーパーによる会報「八清親和会トピックス」は、新型コロナウイルス感染拡大のなかでも、**自治会行事や活動の中止や自粛になっている今、“自治会員とのつながり”を守り続けるための最大の手段として存在感を高めています。自治会活動予定・報告ならびに、会員が知りたい・身近な情報の発信・提供**で、自治会の“今”を伝えています。

◇コロナ禍により「掲示物がない掲示板」の積極的な活用

行事・活動などの中止、自粛により掲示物がほとんどない掲示板活用方法として、新型コロナウイルス感染予防対策などの啓発、周知や自治会PRを地域住民に行っています。

特に今年度は、行事・お知らせ・案内が少ない分、感染症災害とでも言うべき「新型コロナウイルス感染症感染拡大」に関する国の省庁、東京都などのHPに掲載されている、自治会に配布されない、会員・地域住民に必要な感染予防や、関連内容をダウンロードし、ポスターとして会員・地域住民への啓発・周知を行っています。したがって掲示板が、掲示するものが無いという理由で空いている時は、八清親和会にはありません。

また全会員には、自治会報に掲載し回覧で周知もしています。

◇回覧物の、月2回への集約徹底による不要不急外出の自粛と効率化

期日指定や緊急以外は、コロナ禍の中でもあり、不要不急の外出をできるだけ避けるためにも、回覧回数を減らし、効果を上げています。

新しい
自治会活動
スタイル

親睦・ふれあい・交流活動

会員同士のつながりを深める大切な親睦・ふれあい・交流の機会です。コロナ禍の中でも、集まり方や親睦・ふれあい・交流の仕方など工夫したうえで、会員同士が交流できる機会を模索しましたが、令和2年は爆発的な新型コロナウイルス感染症感染拡大により、八清親和会も四大行事を始め主な活動が中止や自粛に追い込まれました。令和3年も同様になりつつあります。

このため、親睦・ふれあい・交流の行事や活動については、令和2年は以下4つをポイントにした活動を行いました。また令和3年も継続しています。

- ◇室外で、感染予防対策、三密を避け、ソーシャルディスタンスのできる活動は可能な範囲で実施する。
- ◇中止する行事、活動については、中止お知らせ等でコロナ後の行事・活動再開につなげることを意識した内容の活動を行う。
- ◇自治会会報「八清親和会トピックス」を活用した会員との親睦・ふれあい・交流を積極的に行うと共に、自治会の存在感を高めるため、より一層の内容の充実を図る。
- ◇会員との集まりや対面活動をしなくても実施できる代替え行事・活動を考える。

1. 地域の環境・美化活動

- ◇八清ロータリー花壇の花の植え替え
初夏と秋の年2回の実施は、市から花の供給がある場合、感染予防対策（マスク着用等）を徹底し、三密（密接・密集等）を避け、ソーシャルディスタンスで行いました。
参加者も30人程度に限定しました。
- ◇清掃活動
5月末～6月初旬に行われる昭島市主催「市内クリーン運動」の一環として実施している八清親和会館内外、昭和天満宮社殿・境内、八清ロータリー花壇の花の抜き取り、八清公園内・公道のゴミ拾い等の清掃活動は、市の運動が中止になりましたが、自治会単独で感染予防対策を徹底し、三密を避け、ソーシャルディスタンスで、野外清掃を中心に行いました。

2. 地域の安全・安心

- ◇交通安全・特殊詐欺防止教室、自主防災訓練
参加者が100人前後になるため、警察署、消防署と協議の上参加者の安全確保を優先し、室内外での実施は中止しました。これに変わる方法として、ポスター・チラシと、昭島市内で発生した交通事故、特殊詐欺被害、火災等のデータ、資料を提供していただき回覧で全会員への周知を図る「書面活動」に切り替え行いました。
- ◇通年の「防火・防犯パトロール」
月2回の青年部による八清住宅地域の「防火・防犯パトロール」は「緊急事態宣言」発令中を除き、参加者を5～7人以下に絞り、感染予防対策、ソーシャルディスタンスで通年行ってきました。
- ◇歳末警戒特別パトロール（12月28日～30日）3日間
参加者が多いため1編成10人以下に絞り、またパトロール区域を2ヶ所に分け、分担してパトロールする方法で実施しました。パトロールに当たっては感染予防対策、三密を避け、ソーシャルディスタンスで行いました。
1日のパトロール（2編成）人数20人以下に絞りましたが、それでも3日間の参加延人数は55名になりました。
- ◇昭和中学校避難所運営委員会の「避難所設営運営訓練」
毎年実施している、昭和中学校地域の5自治会の地震等による災害時の避難所設営運営訓練は「コロナ禍でも災害は待ってくれない、このような状況だからこそ、避難所設営運営の知識を高めよう」を行動指針に、参加者を限定しコロナ禍での避難者受け入れを想定した、体温・手指消毒を徹底して氏名等を受付簿に記入する訓練から始まり、防災

倉庫の保管物の確認、簡易パーテーションの組み立て等の体験をしたり、コロナに対応した避難所の設営運営方法を学びました。

3. 四大大行事

お花見会・夏祭り・運動会・餅つき大会の四大大行事は、今や来場者、参加者を合わせると数百人、夏祭りに於いては2日間で千人以上が集まるため、ほとんど中止にせざるを得ない。この中止のお知らせに於いて「コロナ後を見据え」行事再開につなげることを意識した活動にしました。

◇中止のお知らせは月2回以上発行の会報「八清親和会トピックス」に掲載し、全会員へ連絡周知しました。会報に掲載する目的は、何の変哲もないありきたりの中止連絡文書ではなく、行事関連カラー写真、行事再開に向けた自治会の思いと会員との再会の期待を込めた内容を掲載しました。

◇町内8ヶ所の掲示板についても、カラー写真入りのポスタースタイルで中止のお知らせを掲示し、コロナ後の再開を目指し地域住民、周辺住民にも連絡しました。

◇行事の催しや協力団体には、個別の中止のお知らせと再開に向けたお知らせ文書の発送・配信を行いました。特に、夏祭りについては、いろいろ協力いただいている商店・企業、地域の名士には、会長・副会長による個別訪問で中止のお知らせと、今までの協力のお礼を含め再開につなげる活動を行いました。

この3つの中止に伴う活動の積み重ねが、八清親和会主催で今や来場者、参加者が数百人～千人規模に増え、行事が活性化した要因の一つもあります。



4. 自治会会報・行事実施報告

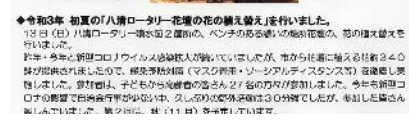
何と云っても、今まで経験をしなかった新型コロナウイルス感染症感染拡大による自治会行事・活動の中止、自粛という環境下で、自治会活動の“ピンチをチャンス”に変えたのは、自治会会報「八清親和会トピックス」の存在です。

八清親和会の会報「八清流親和会トピックス」発行は、平成28年（2016年）12月が第1号発行で、当初の目的・位置付けは、歴史ある自治会と言いながら「自治会報は無い、ご案内紹介も無い、説明資料も無い」の“無い、無い尽くしの自治会”でした。

また、情報はほとんどが常任委員止まりで、末端会員へは伝わっていないため「どのような活動をしているか分からない」と言われていました。

このため、コロナ前の八清親和会報や行事実施報告は、単なる情報伝達ではなく、会員とのコミュニケーションツールとしての役割が主な目的でした。

そして会報の“会員のための、会員目線で、会員が必要な情報”提供と、活動実績報告のコミュニケーションツールとしてのポイントは、



◆令和3年 初夏「八清ロータリー花壇の花の植え替え」を行いました。【令和3年8月14日(土)～15日(日)開催予定の夏祭りは、来場者・参加者の安全確保を優先し中止します。会場ならびに地域住民、周辺自治会住民の皆さんに楽しんでいただいている、八清親和会主催「昭和大清宮大祭&盆踊り大会」の夏祭りは、残念ですが今年も中止します。今年も昨年引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される状況でもあり、一方で、ワクチン接種も始まりお祭りの楽しみが戻つつありますが、8月の祭りまでに全戸調査・世代へのワクチン接種や、この効果の検証ができません。また「密接」「密集」などによる来場者・参加者の安全が確保できないため、中止することに決定しました。地、昨年同様、8月14日(土)は神事のみ執り行います。参加者につきましても、これらの状況を見据え、関係者の多くが参加を断念していただいております。今年も神事に合わせ、神事のお祝いも行う予定であり、日中昭和天宮西側に面した八清公園内側に万代神輿、本神輿を展示し少しでも地域住民、会員に祭り気分を味わっていただくことも計画しております。来年中こそは、コロナ後も見据え、再び楽しい夏祭りができることを期待しましょう！【令和3年8月の地】 【令和3年の神事日程表】

- ・高齢化あるいは、体の不自由により、行事に参加できない、会場に来ることができない会員を意識、対象にした報告
 - ・仕事や自営業により、行事に参加できない会員への報告
 - ・行事参加に興味がない会員への、興味を持たせる情報提供
- の3つでした。

しかし、今回の新型コロナウイルス感染症感染拡大により、役割が大きく変わりました。それは、ウイルスの感染拡大により不要不急の外出、人との接触の自粛による自治会行事や活動の中止・自粛により、このままでは会員とのつながりが希薄になる恐れがあり、これに変わる活動として、人との接触がなくても会員とのつながりが維持できる「広報活動」に比重を移しました。そして新型コロナ感染拡大の環境の中でも、会員とのコミュニケーションを保つことができるよう内容も変え、より充実させることにしました。

キーポイントは、

◇「こんな時 だからこそ」「不安な会員への配慮」を重点に置いた「新型コロナウイルス感染症感染拡大情報」です。

◇会員の身近な、一番知りたい、感染予防対策に必要な情報は、新聞・メディア窓で報道されない、又は余り報道されない、あるいは昭島市・東京都の複雑なホームページを開かないと見ることができない「昭島市・東京都の日々変わる感染拡大情報」を、数字から簡単に誰にもわかり易い、イメージし易い図・グラフ等に置き換え、またピンポイント情報ではなく、感染状況の経過が継続して解かる表示で提供しています。

◇情報提供は、デジタル（八清親和会ホームページ）でほぼ毎日、デジタルで見ることができない会員向けには、ペーパー（会報「八清親和会トピックス」）により、ほぼ2週間サイクルで提供しています。必要により臨時に特集を組み情報提供をしています。

◇広報担当への、感染情報に関連した会員からの問い合わせ・質問等に対応した内容も、情報の共有化から必要なものはホームページ・会報へ投稿・掲載し提供しています。

◇通常の情報提供以外に、外出の自粛や人との接触が自粛されているため、会員の身近な興味ある情報や八清住宅地域の季節を感じる情報、また「八清住宅地域の今・昔」をテーマにした八清の歴史シリーズ等新たな試みも行っています。

5. 代替え行事・活動

八清親和会の四大大行事（四季の行事）が全て中止になったため、これに替わる行事を模索していたところ会員より催しの提案があり採用し実施しました。

◇大人会員向けに「思い出川柳コンテスト」、子供向けに「絵日記に描きたかった思い出絵はがきコンテスト」

応募者には、参加賞として「QUOカード2,000円」を差し上げました。

以上、まだまだ不十分ですが、参考になりましたか。
令和3年も引き続き実施事例をまとめていきます。

以上